

一 論説 (配点35)

問一 解答番号1 正答② (配点3) 傍線Aは、「英語や中国語」と「話し手の数が多い」の2つのフレーズが、英語の文法用語を借用すれば、関係代名詞の非制限用法のごとく結びつけられており、そうであれば、「中国語という」の下に読点を付しておく方がより読みやすくなる。

問二 解答番号2 正答① (配点4) 「拮抗」は勢力がほぼ等しい状態。1行目に「話し手の多い大言語」という表現があるので、ここでの「等しさ」は「話し手の数」ではなく「言語の数(種類)」であると考えるのが妥当である。

問三

- (1) 解答番号3 正答⑥ (配点3) 正しい表記は「特徴」。従って(c)「奇特」と(b)「徴兵」の組合せが正解。
(2) 解答番号4 正答③ (配点3) 正しい表記は「許容」。従って(b)「特許」と(a)「包容」の組合せが正解。
(3) 解答番号5 正答④ (配点3) 正しい表記は「規範」。従って(b)「新規」と(c)「垂範」の組合せが正解。
(4) 解答番号6 正答⑤ (配点3) 正しい表記は「案外」。従って(c)「案文」と(a)「心外」の組合せが正解。

問四 記述問題1 (配点8) たとえば「あいにく」という副詞や、「残念ながら」という副詞句を用いれば、たとえ動詞部分(述部)を聞かなくても否定的な表現であることは想像できるし、逆に「ぜひ」とあれば前向きな姿勢・意欲は述部を聞く前に読み取ることはできる、といった程度の意味。解答例は『「〇月〇日の会議は欠席します。」という発言に「残念ですが」という副詞句を添えれば、述部を聞く前に話し手の言いたいことは概ね伝えることができる、ということ。』(77字)

問五 記述問題II (配点8) 出題文から読み取ることができる、あるいは読み取るべき内容は、(1)全然は否定語と呼応する必要はない、ことと、(2)否定語と呼応しない言い方は以前から存在していた、の2点。解答例は『「ぜんぜん」は、もともとは否定語と呼応する副詞ではなかったが、何らかの事情で否定語と呼応させなければならないという考え方が広まってしまった、という指摘。』(76字)

二 小説 (配点 35)

問一

- (1) 解答番号 7 正答③ 「配点 2」 「復興」の「復」は「また」、「興」は「おこす」の意。「おこす」は「さかんになる」こと。
(2) 解答番号 8 正答① 「配点 2」 「繁栄」は「さかえる」こと。「繁」は「草木が生い茂るほど盛ん」な様子を示す。
(3) 解答番号 9 正答② 「配点 2」 「横」には「よこ」の他に「枠をはみ出る (ex 横溢)」「ほしのまま (ex 横行・専横)」の意がある。
(4) 解答番号 10 正答⑤ 「配点 2」 「基地」は軍隊の根拠地。「基」は「土台」「根本」の意味を持つ漢字。

問二 解答番号 11 正答④ 「配点 4」 傍線部直前の「おれの立場が正しい筈」という判断の根拠は、今行われている類いの議論を学校で行えば姉のような意見は一挙に粉碎されるのが常だという経験に基づいたものである。

問三 解答番号 12 正答① 「配点 4」 「昂奮していった」自分の意見を姉は「昂奮しないで」軽く受け流し、しかも、自分はその姉の意見に論理的に反論することができない。悔しさと忸怩たる思いは、青年の場合、自暴自棄へとつながり易い。

問四 記述問題 III 「配点 8」 「そんな」は弟の発言のすべてを受けている。また、ここでの「首尾一貫」は「全ての辻褄が合っている」といった程度の意味。解答例は『保守党政権を選択する有権者を批判し、保守党政治の成果を一切認めない態度は、左翼の行動や考え方と合致する、ということ。』(58 字)

問五 記述問題 IV 「配点 7」 解答のポイントは「ミキサー」の比喩性をどう捉えるかにある。文脈上、姉の思い浮かべているミキサーは単なる攪拌機ではなく高い粉碎機能を持ち合わせている。解答例は『左翼は、保守党政権が苦心して成し遂げた成果のいい部分は享受し、不完全な部分は批判する、ということ。』(49 字)

問六 解答番号 13 正答② 「配点 4」 「まったく」は「まったくの」「まったくだ」の形で「本当」の意味となる。傍線部 E は「やれるならとつくにやっつてるけど本当のところそれは無理な話でねえ」といった趣旨の発言と読み取るのが妥当である。

三 語句・文法 (配点30)

問一

- (1) 解答番号 14 正答⑤ 「配点3」 「そのことに集中せず、落ち着かない」 様子を言うが、「着実でない」さまも指す。
- (2) 解答番号 15 正答② 「配点3」 胡座あぐらと正座、あるいは中腰を対比させた視覚的な慣用句。「この地位は安泰である」という安心感を言う。
- (3) 解答番号 16 正答① 「配点3」 「曲」は、まっすぐでないことから「変化」「面白み」の意味が生じた。

問二

- (1) 解答番号 17 正答④ 「配点3」 「鎌をかける」の「鎌」は草や柴を刈るための農具。刃の部分が三日月形をしているため、誘いをかけるの意が生まれたか。他に「火打ち鎌」の「鎌」とする説もある。
- (2) 解答番号 18 正答③ 「配点3」 「目が肥える」とは「見慣れていて善し悪しを見分ける力がある」こと。
- (3) 解答番号 19 正答① 「配点3」 「舌を巻く」は「非常に感心する」「ひどく驚く」の意。「言葉も出ない」さまから。

問三

- (1) 解答番号 20 正答③ 「配点3」 「名誉」は「よい評判」、「毀損」の「毀」は「こわす」「きずつける」の意。
- (2) 解答番号 21 正答④ 「配点3」 「半信半疑」を訓読すれば文字通りの意味が現れるが、正確には「真偽を決めかねている」さまを言う。
- (3) 解答番号 22 正答⑤ 「配点3」 「順風」は「追い風」、「満帆」は「帆をいっぱい張る」こと。
- (4) 解答番号 23 正答② 「配点3」 「貫徹」の「貫」は「つらぬく」、「徹」は「とおす」の意。

〈記述問題採点基準〉

一 論説

問四 記述問題Ⅰ〔配点8〕

- (1) 出題文が求める条件（表現の骨格）が充たされていて【最大部分点④】
- (2) 任意の副詞または副詞句及びそれらに準ずる語がどのような結論を予想させるかに触れ得て【最大部分点④】

問五 記述問題Ⅱ〔配点8〕

- (1) 「ぜんぜん」という副詞は否定語と呼応する必要がないことを示し得て【最大部分点④】
- (2) 何らかの事情で「ぜんぜん」が呼応の副詞であると誤解されるに至ったことに触れ得て【最大部分点④】

二 小説

問四 記述問題Ⅲ〔配点8〕

- (1) 「そんな」の指示内容が適切にまとめられていて【最大部分点⑤】

- (2) (1)の内容と「何が」「どういう点で」一致していると姉は言っているのが説明できている【最大部分点③】

問五 記述問題Ⅳ〔配点7〕

- (1) 設問の条件である「主語」が明示されていて【最大部分点②】

- (2) 「ミキサー」の比喩性が正しく解体されていて【最大部分点②】

- (3) 「甘い汁」と「辛い汁」の説明が適切になされていて【最大部分点③】